

帯広コア47人 夢を胸に一步

帯広コア専門学校（千葉直樹校長）の入学式が8日、帯広市民文化ホールで開かれた。新入生47人は夢や目標を胸に新たな一步を踏み出した。

今年度は高度情報システム科3人、情報ビジネス科



決意を述べる新入生
代表の熊谷さん

7人、医療ビジネス科13人、介護福祉科9人、歯科衛生士科15人が入学した。

千葉校長が「目標に向かって、自ら考え、行動し、挑戦し続ける姿勢を持って自己成長を図ってください」と式辞。来賓の米沢則

寿市長（代読・池原佳一副市長）が祝辞を述べた。在校生を代表して情報ビジネス科2年の櫻井湧大さんが「一日も早く学校生活に慣れるよう応援しています」と歓迎の言葉を述べた。

新入生を代表して、医療ビジネス科の熊谷綾乃さんが「学業にまい進し、実りある学生生活を送ります」と意気込みを語った。

（瀬藤範子通信員）

フードバレーとかちマラソン

疾走感。ポスターで表現

帯広コア学生がデザイン

10月29日に帯広市内で開催される「フードバレーとかちマラソン」(大会実行委員会主催)のポスターが完成した。毎年、帯広コア専門学校の学生が考案したデザインを基に作成しているが、今回はマラソンランナーの疾走感を風車で表現。大会キャッチコピーの「トカチノカゼニナレ」が目を引きデザインになった。

ポスターは第2回大会から実行委が同校にデザインを依頼。今回は学生約30人

が、ポスターデザインや大会キャッチコピーの案を出し、全体デザインは情報ビジネス科2年の松崎壮平さん(22)、ワンポイントデザインには同科1年の浦瀧光さん(22)、キャッチコピーは同科2年の逢坂凜太さん(22)の案が採用された。

松崎さんはランナーの速さは風、マラソンからは道を連想。青を基調にした爽やかな仕上がりに、「完成したポスターを見て実感が湧いた」と自身も驚いている。

浦瀧さんはポスター下に描かれているランナーのシルエットを考案。シンプルな伝わりやすさを追求した。デザインに関わる仕事を志しているため「活動の自信になると話している。陸上競技の経験がある逢坂さんも「マラソンはランナーも観客も風を一番感じる」といい、「片仮名にすることで伝わりやすさや爽



大会ポスターを考案した(左から)浦瀧さん、松崎さん、逢坂さん

快感を表現した」と話す。「ランナーを見ていると自分も走りたくなる」と出場にも意欲的だ。

今回はコロナ禍で中止していた飲食の出店を再開するなど、規模をコロナ禍前に戻して開催する予定。エントリーは7月4日から9月15日まで受け付ける。

(細谷敦生)

学生が特養実習 支援の成果報告

帯広コア専門学校

帯広コア専門学校で27日、介護福祉科2年生の「ケーススタディ報告会」が開かれ、学生が介護実習の成果や課題を発表した。

2年生13人は5月15日から5週間、特別養護老人ホームなどで実習に臨んだ。学生たちはそれぞれ睡眠や歩行、食事、趣味などに重



実習の成果を発表する
学生

点を置いて介護計画を立て、利用者と向き合った。

三澤朋美さんは「日常に花を添えたマニキュア」をテーマに発表した。おしゃれが好きな90代女性入居者の爪にマニキュアを塗ったことで、女性と他の利用者との交流機会が増えた変化を紹介。自然と離床時間が増えるといった効果が見られたとし、「ほんの少しの『非日常』で、現在の生活を活性化することができた」と述べた。

ミャンマー人留学生のルウィンアウンモーさんは「おいしく食べて満足を得るためには」と題し、利用者の潜在能力を引き出して自ら食事をしてもらうための試みについて紹介した。

報告会には実習先の職員や歯科衛生士科の学生が参加したほか、系列校の都城コアカレッジ（宮崎県）の学生と教員もオンラインで耳を傾けた。（澤村真理子）

帯広コア入学者に15万円

十勝歯科 医師会 衛生士科対象に支援

十勝歯科医師会（大滝達哉会長）は、帯広コア専門学校・歯科衛生士科への入学者1人に、支援金15万円を給付する「十勝歯科医師会地域密着型入学者支援制度（十勝枠）」を新設した。来年度入学者から適用される。歯科衛生士は全国的に不足していて、同会では「卒業後も、十勝管内で働く歯科衛生士の人材確保につなげたい」（大滝会長）としている。



新設した「十勝枠」をPRする
十勝歯科医師会の大滝会長（左）
と笹原大輔理事

ろうくう）ケアの専門家・歯

科衛生士の需要が増える一

方、現場では人材不足が問題となっている。十勝管内でも「根本的に、慢性的に人材が足りない」（同）といい、解決に向けた対応が急務となっていた。

同会は、帯広市内を中心

とした歯科診療所・病院での臨床実習など、全面的に協力する同校へのサポートを強化。「地元で有能な人材を育成し続けている同校への入学者を、一人でも多く確保することで、管内の歯科医療で働く歯科衛生士が増えれば」（同）と、新たな

給付制度を設けた。15万円は入学金の額に相当する。給付された入学者は「卒業後、十勝管内の同会会員

の歯科医院に3年以上勤務すること」が条件。来春卒業する道内外の高校3年生が対象。同校に入学しない場合は給付されない。申し込み締め切りは8月末。選考面接は9月9日に行い、合格内定者には郵送で通知する。同会では「医療に興味がある高校生が、歯科で働くためのきっかけづくりになれば」とする。問い合わせは同会事務局（0155・25・2172）へ。（松岡秀宣）

介護職確保へ体験授業に力

帯広市内の帯広コア専門学校（千葉直樹校長）が、オープンキャンパスの通年開催や中学校への出前授業など学生確保のための取り組みに力を入れている。同校は十勝管内で唯一、介護福祉士を養成する専門学校として知られる。近年は高齢化を背景に介護関係の求人が増える一方、入学者数が定員に満たないことが多く、試行錯誤が続いている。

同校の介護福祉科では、直近5年間の卒業生の約8〜9割、多い年では全員が十勝管内で就職した。一方、入学者数は2022年度が15人、23年度が9人。ここ数年、定員40人を下回っており、23年度に定員を1学年40人から20人に削減した。

コロナ禍前は留学生も10〜20人おり増加傾向にあったが、千葉校長は「留学生はいずれ母国に帰国する。将来の介護人材を増やすには、もっと日本人に入学してもらいたい」と話す。

同校ではオープンキャンパスを毎月開催し、体験授業を行っている。体験授業のテーマは介助や口腔ケアなど幅広く設定し、7月には初めて、認知症への理解を広めようと仮想現実（VR）で体験できるブースを設けた。早い時期から介護の仕事の魅力を知ってもらおうと、中学校から要望があれば出前授業にも応じているという。

ハローワーク帯広によると、介護職のホームヘルパー

介護計画 中学出前も

やケアワーカーの今年7月の有効求人倍率は4.13倍で、他の職種と比べて高く「人材不足分野のひとつ」（ハローワーク帯広）だ。結果として1人当たりの夜勤の頻度が高くなるなど、労働環境の厳しさに拍車をかけている。

一般社団法人「介護人材政策研究会」（東京）によると、人材不足は全国的な傾向で、「賃金が低い」「人手不足で働く環境が厳しい」などのイメージが広がり、少子化もあって人材の減少につながっているという。

ただ、同校の卒業生からは「夜勤は大変だが、高齢者と関わるのは楽しい」などの声もある。同校2年生が介護施設での実習を経て7月に行った報告会では「やりがいのある仕事だと感じた」「働くのが楽しみになった」という前向きな意見も出ていた。

千葉校長は人材確保に努める一方で「介護職の人材不足は、やがて国民全員に降りかかる問題として取り組む必要がある」と話す。

（西山花音）



介護福祉士を目指して実習の結果を報告する帯広コア専門学校生=7月

ゴシツ

○…「来たるカルメ焼きを販売
れ帯コアの新し、昼にはほぼ完売の
時代」帯コア 大盛況。医療ビジネス
film学校 科1年生は、人体クッ
祭」をテーマにチョコペンで骨
マに、帯広コア専門学 を描く店を出し、大勢
校(千葉直樹理事長) の人だかりで大忙しだ
の学園祭が9日、同校 った。写真。

○…同校らしい出し
物に来場者も興味津
ボットがお出迎える 々。人体クッキーに挑
中、保護者や地域住民 戦した帯広翔陽中1年
ら約200人が訪れ の関谷心花さんは「難
た。模擬店では歯科衛 しかったけど、楽しか
生工科2年生が、ハー った。『目玉サイダー』
ト型や歯型に型抜きす がめっちゃおいしい」



と笑顔で話し
た。櫻井湧大
生徒会長は
「年代を超え
て流行を肌で
感じてほしい
と企画した。
楽しんでくれ
て良かった」
と盛り上がり
に大満足して
いた。
(馬淵智子通
信員)

「時代のニーズに合った人材を十勝へ輩出するのがミッション。『この学校だから来た』と言ってもらえるようなブランド化が必要と考える。淡々と語る中にも後進の育成への熱い思いがのぞく。

学校法人帯広コア学園が運営する、十勝唯一の総合専門学校「帯広コア専門学校」に2017年に開設された歯科衛生士科。主任として教員を取りまとめることに、「歯牙解剖学」「歯周治療学」などの講義で教壇に立つ。

1986年帯広市生まれ。幕別札内北小、幕別札内東中、帯広大谷高卒。小樽歯科衛生士専門学校を出てUターン。出産・育児を挟みながら帯広

ニーズに合う人材輩出



「地域の住民、歯科医院に求められる人材を輩出していきたい」と語る前田さん

企業ファイル

就職率2年連続100%

- 本部 帯広市西11南41
- 代表者 千葉直樹理事長
- 法人設立年 1985年
- 常勤職員 17人

1986年に帯広コンピュータ専門学校として開校。2007年に現校名に。高度情報システム科、介護福祉科、医療ビジネス科、情報ビジネス科、歯科衛生士科、専攻科がある。専攻科を除く総定員275人に対して在籍者は122人で、充足率は44.4%（4月1日現在）。就職率は2年連続で100%を達成、9割超が十勝に就職している。

帯広コア専門学校 前田恭子さん

市内の4歯科医院に計10年務める歯科衛生士の育成」を掲げた。恩師の影響で専任講師の職に関心があり、2018年に帯広コアへ転職した。人生100年時代となり、歯科衛生士の果たす役割も重要性が増す。「栄養指導がで

きる歯科衛生士の育成」を掲げた。恩師の影響で専任講師の職に関心があり、2018年に帯広コアへ転職した。人生100年時代となり、歯科衛生士の果たす役割も重要性が増す。「栄養指導がで

「私たちが患者さんを健康に導くことが仕事。患者さんの強みを見て、健康維持・増進をどう指導するか」と語る。

小4、小2、3歳、1歳の3女1男を育てるお母さん。37歳。（澤村真理子）

地域に出て活躍を千葉直樹理事長兼校長の話使命感の大きさを感じる。地域全体のお口の健康を守るため、今まで以上に地域に出て活躍してほしい。

マラソン 走りも裏方も

帯広コアで
120人壮行会

帯広コア専門学校（千葉直樹理事長）は25日、帯広市内を舞台に実施する「2023フードパレ」とかちマラソン」（29日）に向けて、壮行会を開いた。ランナーやボランティアとして参加する同校生徒と教職員計12

0人が、レース本番を前にして、気持ちを高めた。同校の学生や教職員は、2012年の第1回大会から「地元に貢献したい」との考えから参加を続けている。今大会は

0人が、レース本番を前にして、気持ちを高めた。この日は、大会参加者が左胸に校章をあしらった、同校オリジナルの青いTシャツを着て集合。当日の流れや注意点などを説明を確認した。ボランティアで参加する渡邊瑞穂さん（19）

情報ビジネス科2年は「裏方として、大会の成功に貢献したい」と語る。ランナーとして出場する松崎壮平さん（22）同2年と高田梢太郎さん（22）高度情報システム科3年の2人は「けがなく完走したい。1位を取りたい」など意気込んでいた。

（山田夏航）



壮行会で気持ちを高める生徒と教職員ら

福澤さん「登録販売者」合格

「病名や薬、知識生かしたい」

医療ビジネス科2年

帯広コア専門学校医療ビジネス科2年の福澤璃奈さん（19）が、薬剤師以外でも一般用の風邪薬などを販売できる「登録販売者」試験に合格した。医療機関への就職を目指す福澤さんは「病名や薬の知識を生かして頑張りたい」と喜んでいる。同科では、今年度の1年生から同試験に向けた学習をカリキュラムに組み込んでおり、一足早い合格者の輩出を喜んでいる。



合格通知書を手にする福澤さん

試験は各都道府県が実施し、「性と基本的な知識」「人体」「薬品とその作用」など5章とし、「医薬品に共通する特」の働きと「医薬品」「主な医」で構成。章ごとに4割以上

かつ全体で7割以上の正答で合格となる。今年度の試験の合格率は51・2%だった。

同学科では「卒業までには何らかの公的資格を取得したい」との学生の声を受け、今年度の1年生から登録販売者試験に向けた学習をカリキュラムに位置付けている。2年時での受験、合格を目指していく。福澤さんは現在の2年生7人はカリキュラムに無いため、夏休みを返上して試験勉強に取り組んだ。

福澤さんは夏休みに入った直後に新型コロナウイルスにかかり、受験勉強ができずに焦った」と振り返るも、復帰後は学校に加えて家でも問題を解き直して追い上げた。高校時代からアルバイトを続けるドラッグストアのスタッフも練習問題を用

う。2年生7人のうち、唯一合格をつかんだ。
同科の野尻志保主任は「実習や他の資格試験の勉強で本当に時間が無い中、一生懸命やっていた」とねぎらい、「資格がある」とセルフメデイケーション（自身での医薬製剤の使用や健康管理）にも役立つ」と話す。（澤村真理子）



ドレスや着物、タキシードでおしゃれを楽しんだ参加者と会場に集まった来場者

「パラコレ」夢は武道館

「結婚披露宴」テーマ車いすでショー

帯広発祥、全国に広がり

障害のある人の人生後押し

パラコレは、NPO法人日本障害者福祉協会帯広センター代表の森田浩幸さん(仮名)が、帯広市で、一障害のある人が華やかな衣装でランウェイを歩くことで自信を持って、その後の人生の後押しになればとの思いでスタート。2017年11月帯広市内で初開催した。森田さんは結婚に「パラコレ」を企画発表。各婚の仲間がイベントを主催する際には後援や協力を得る。

今回のショーでは十勝在住の24歳の娘の9人がモデルを務め、白鳥地(むく)や黒の紋付を着たまま、華やかなドレスやタキシード姿などを披露。やや緊張した面持ちながらも、観客からの温かい声に笑顔を見せた。帯広コア専門学校介護福祉科の2年生もボランティアで協力した。

モデルの発掘力増せば

森田さんは「パラコレ」のちに「パラコレモデル」という称号を名けて、当事者の発掘力が伸びてほしいと願う。そうしたいから「パラコレ」モデルを務める人には、必ず本人の意思で参加してほしい。2年前に帯広で生まれた「パラコレ」は各地に広まりつつある。今後は愛知学院や札幌山崎、滋賀県での開催が決まっている。森田さんは「1都府県限定でいい。武道館で全国的なパラコレモデルファッションショーをしたい」と夢を抱く。



開会のあいさつをする森田さん



ランウェイで華やかなドレスを着た森田さん(仮名)



電子版に複数写真

将来は仕事を通じて 海外ボランティアへ

帯

「帯で生まれ育った私は「高校卒業後の進路も絶対に地元で！」と考えていました。自分の進路と本格的に向き合ったのは高校2年生の時、ある女性チューナーバーとの出会いがきっかけでした。彼女はファッション系のインフルエンサーとして活躍しながらも、普段は歯科衛生士として働く姿に衝撃を覚えました。配信で見ている華やかな世界の裏には努力があるのだと知り、私も頑張ろうと決意しました。

歯科衛生士になるため帯広コア専門学校への進学を母に相談すると、「資格を取得すれば長く働ける職種なので良いね」と喜び、背中を押してくれました。偶然、同じ高校から同じコースに進学した友達が数人いたことも心強かったです。

入学してからの1年目は、歯科医療に携わるための基本的な知識や技術を校内で勉強しました。コアには歯科医院で実際使用している器具や診察台などがそろっているので、現場と同じシチュエーションで実習できます。昨年からはインターンシップとして地元の歯科医院で学ばせていただいているので、学校で経験した実習が自信となっています。また学生の身ですが、歯の悩みを持って治療に来られる患者さんに対してプロとして向き合わなければいけないので緊張もしています。授業や実習は大変ですが、高め合えるクラスの友達がいることは大きな心の支えです。休日は学校の仲間とドライブやカラオケ、趣味である神社巡りに出かけてリフレッシュをしています。失敗は許されない世界なのでしっかり休み、気持ちを引き締めてから実習に臨むよう心掛けています。

今年は3年目を迎え、昨年とはまた違う歯科医院でのインターンシップが始まります。同時に、国家資格取得への受験勉強も本腰を入れなければいけません。この挑戦は社会人としての新たなステージに向け、自分自身が成長できるチャンスだと考えています。卒業する頃には相手の気持ちに寄り添い、責任ある言動を取れる大人になりたいです。



帯広コア専門学校

やすだ

ちさき

安田 千咲さん



【プロフィール】2003年9月生まれ、帯広市出身。帯広大谷高校普通科を卒業後、帯広コア専門学校の歯科衛生士科コースに進学。学生時代は中学でソフトテニス、高校で料理部に所属。さらに焼き肉店でのアルバイトも経験し、学業と両立させた。

2024年1月7日 十勝毎日新聞 【10面】



買い物やバイト 閉店対策を訴え

市議会意見交換で 帯広コア学生

帯広市議会（横山明美議



まちづくりについて意見
交換する学生と議員

長）は22日、帯広市内の帯広コア専門学校で「お出かけ意見交換会」を開いた。学生の目線から市への要望を聞き、まちづくりについて意見を交わした。

地域住民の声を議論や政策づくりに反映させることを目的として定期的に開催している。市議10人が同校に出向き、5科の学生40人と5班に分かれてワークショップ形式で意見交換した。

冒頭、横山議長が「帯広をより住みやすいまちにするために皆さんの意見を聞きたい」とあいさつ。「帯広市に言いたいこと」では、多くの班で大型店閉店に伴

う商業施設の在り方や、バス、除雪の問題について改善を求める声が上がった。

商業施設に関しては、「一つの場所で購入物が完結できる施設がほしい」などの要望が出た。6月に閉店を予定するイトーヨーカドー帯広店のテナントでアルバイトをしている学生からは「アルバイト先がなくなる」と切実な声も聞かれた。書店の相次ぐ閉店も話題に上がり、「どこで本を買えばいいのか」と困惑していた。バスについては、「便数が少なく不便」「減便となり、乗り継ぎで時間もお金もかかるようになった」などの意見が出た。除雪について音更に住む学生は「音更はきれいだ。帯広もきれいにやってほしい」と求めた。

（津田恭平）

介護現場で学んだ
「共感して待つ」

帯広コア専
実習を報告

帯広コア専門学校（千葉直樹校長）で1日、介護福祉科1年生の「ケーススタディー報告会」が開かれ、学生が介護実習の学びや課題を発表した。

1年生7人は昨年10月11日から6週間、老人保健施設などで実習を行った。学生たちは利用者が直面する食事や社会参加などの課題を抽出し、実践結果を基に

研究を行った。

中野かおりさんは「『共感して待つ』ことの重要性」をテーマに発表した。関節リウマチで手の変形がある利用者に、好きだった裁縫を楽しんでもらいたいと手指のリハビリや裁縫在宅ワークについて提案。しかし、長期間患っていることもあり、なかなか踏み出すことができずにいた。中野さんは「すぐ次の希望が見つからない場合がある。共感・受容し待つことの大切さを実感した」と語った。

北田真奈美さんは「笑顔が素敵（すてき）なYさん」



と題し、つかみやすい大きさのスプーンに変更したりすることで自ら食事を楽しんでもらう試みについて紹介した。

報告会は、姉妹校の新庄コアカレッジ（山形県）の学生同士によるオンライン合同実習報告会として初めて行われた。帯広コア専門学校の2年生も参観し、活発な質疑応答が行われた。

（菊地青葉）

発表者への質疑で理解を深めた報告会